

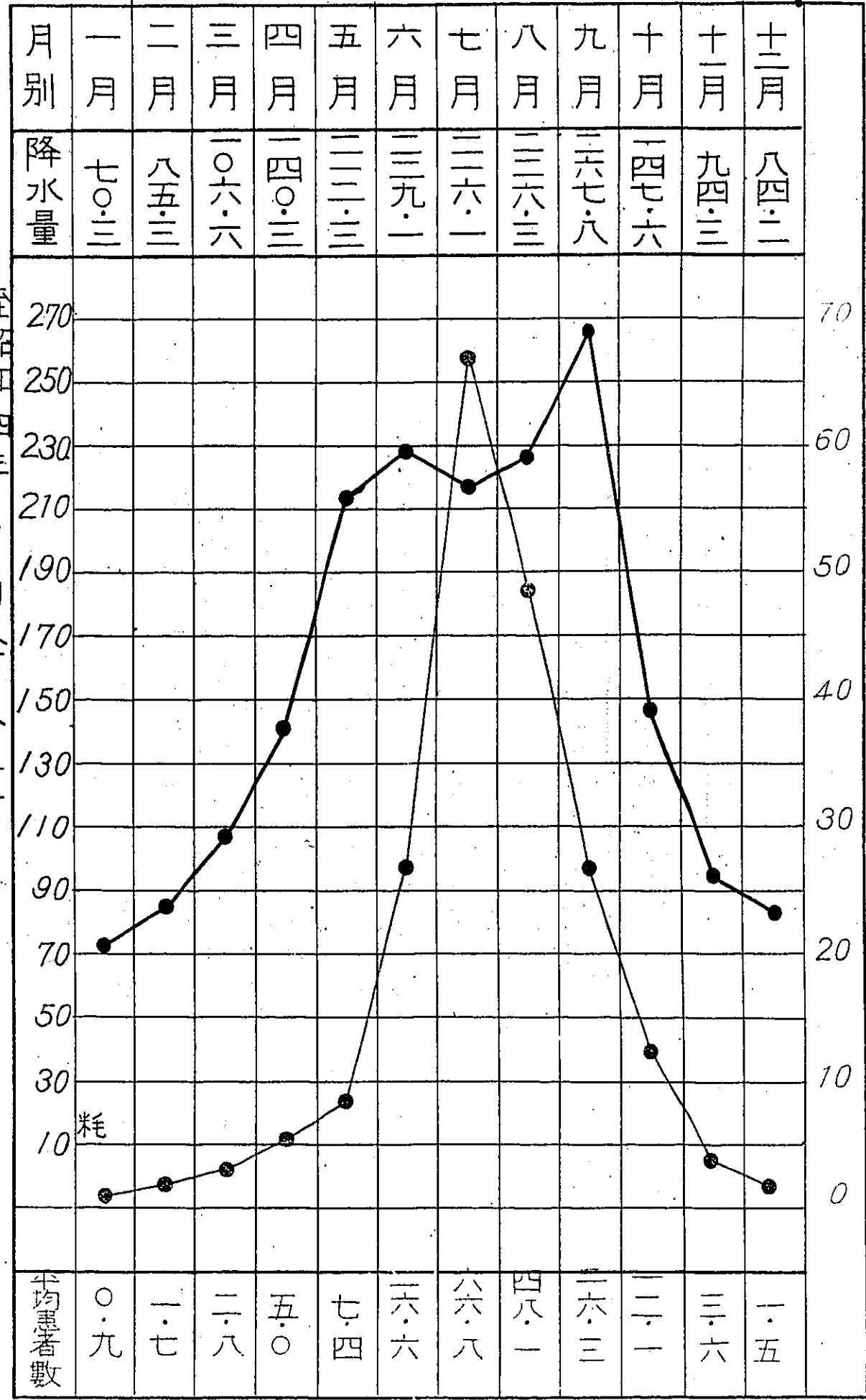
平均湿度の季節的變化は九月に於て最も高く八三・一を示し、八月にては稍々減少して八〇・六、七月にては八〇・一を示し、最も低きは二、三、四月なり。  
 即ち之れを疫癘發生數に比較するに患者多き六、七、八、九月は湿度多き季節に相當するを見る。

第四節 降水量

本縣に於ける降水量は地勢的關係上比較的多量にして、北陸を界する白山々脈の一帶及び之れより支脈する西部伊吹山脈に沿ふては降水量多く、漸次南に至るに従つて其の量を減少し、季節的には六、七、八、九月と漸次増加するも十月に至りて急に減少し、酷寒冬季の間最も降水量少し。

自大正九年 至昭和四年		降水量 (耗)										
月別	年次	水 量										
		九大正	十大正	十一大正	十二大正	十三大正	十四大正	昭和大正	二昭和	三昭和	四昭和	平均
一	月	七二・八	一三三・七	九三・五	六四・〇	一一・六	一一・八	五〇・五	六三・〇	一六・七	四三・〇	九〇・三
二	月	一〇四・八	六六・六	二二・一	八六・三	六三・三	五九・一	七九・四	四三・八	八六・四	四六・〇	八五・三
三	月	一五二・六	一〇九・六	一一六・三	一五四・四	二五・一	七・五	九二・一	一七五・八	一一五・七	五三・〇	一〇六・六
四	月	一四三・三	一九六・四	一一九・八	一八三・〇	一九八・一	一五五・九	七・〇	八四・三	一一六・七	一一三・〇	一四〇・三
五	月	一七九・二	二二三・三	一一五・三	三〇六・七	二五二・〇	二四九・八	二四五・五	二〇四・〇	一四〇・四	一九八・〇	二二二・三
六	月	三三三・九	三八四・六	八九・一	三三三・三	一九六・六	三八・九	一六〇・三	一三三・四	三九〇・〇	二〇〇・〇	三三二・一

自至  
大昭  
正和  
九年四年  
平均降水量



計	二	一	十	九	八	七
月	月	月	月	月	月	月
一、〇三三・五	一、三三・四	八五・四	七五・六	一、二九・九	四二・八	一、七〇・〇
二、三三三・一	四三三・〇	四四・〇	一、三三・九	四三〇・七	一、九〇・〇	二、三三・三
三、三三三・一	八五・五	一、三二・一	一、四〇・六	一、二九・六	七一一・〇	三、三三・三
四、三三三・一	五三三・〇	一、三三・〇	一、三三〇・六	一、三三・二	七二・七	五、三三・〇
五、三三三・六	一、〇二・二	九六・〇	三三〇・三	一、二八・一	六三三・三	九三三・〇
六、三三三・四	一、〇九・二	九六・四	七二・一	四〇六・六	三一一・二	一、一七・九
七、三三三・三	一一八・八	二六・九	八六・二	二二六・九	一〇三・五	一、六一・一
八、三三三・七	七六・八	八七・三	一〇三・三	二二二・六	一八五・二	三、九六・四
九、三三三・九	七六・七	一〇四・八	一九三・五	一八〇・九	一三〇・〇	一、九二・一
一〇、三三三・〇	一、三三・〇	一〇二・〇	一九〇・〇	四三三・〇	九四・〇	一、九二・〇
一一、三三三・〇	八四・三	九四・三	一四七・六	二二七・八	三三六・三	二、六一・一
一二、三三三・〇	八四・三	九四・三	一四七・六	二二七・八	三三六・三	二、六一・一

第五節 日照時

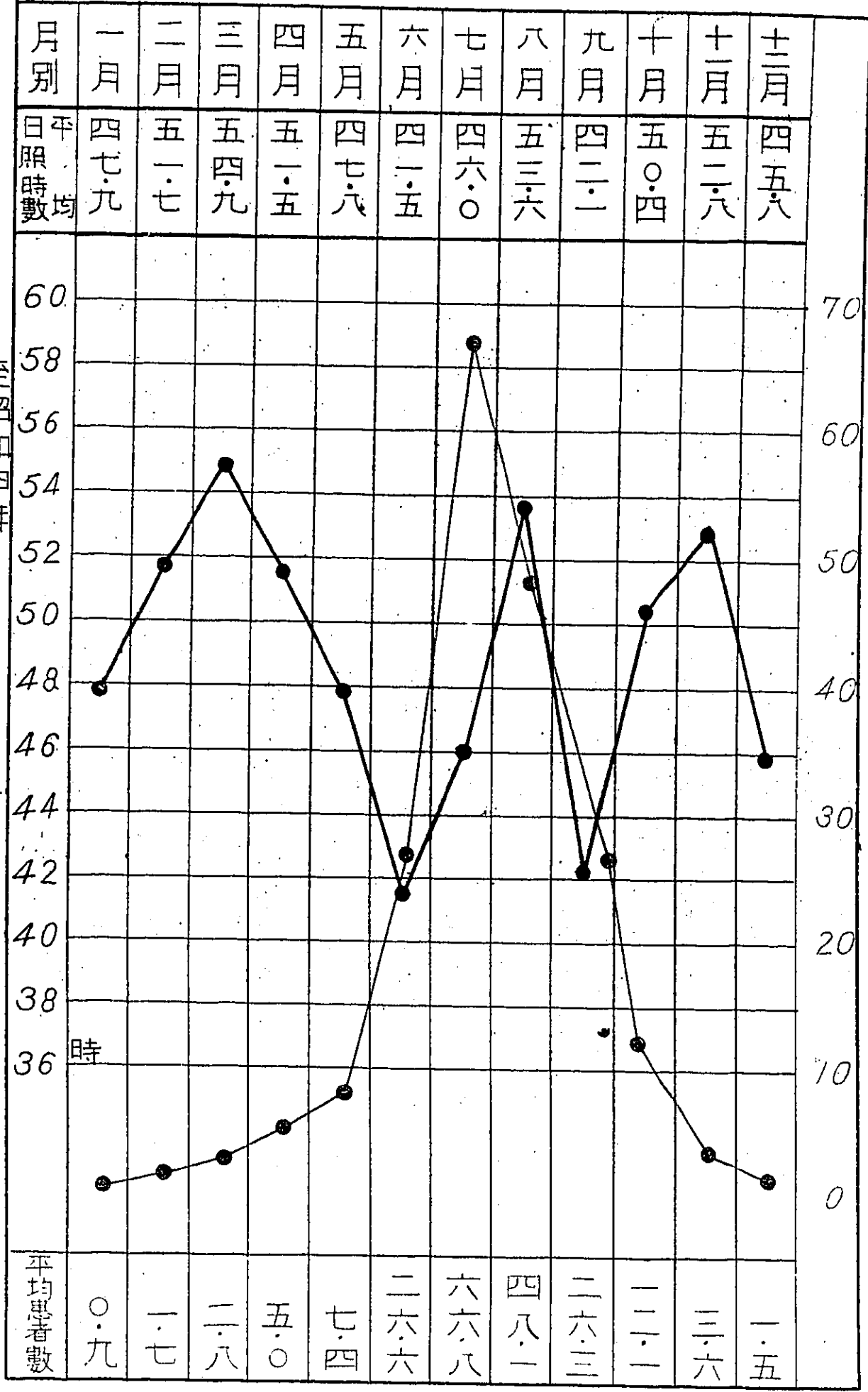
十箇年平均に依る各月日照時は表左の如し。

月 別	自大正九年 至昭和四年										
	九 大 年 正	十 大 年 正	十 一 年 正	十 二 年 正	十 三 年 正	十 四 年 正	昭 和 元 年	二 昭 和 年	三 昭 和 年	四 昭 和 年	平 均
一	四九・〇	四三・〇	四二・〇	四六・〇	五二・〇	四七・〇	四六・二	五〇・九	四二・一	五三・〇	四七・九
二	四三・〇	五〇・〇	四九・〇	五九・〇	四九・〇	四七・〇	五五・二	五〇・九	五八・六	五七・〇	五一・七
三	四二・〇	四三・〇	四七・〇	五九・〇	六三・〇	六二・〇	五四・〇	五〇・八	六〇・五	五二・〇	五四・九
四	五四・〇	四三・〇	四七・〇	三六・〇	四六・〇	五二・〇	五八・〇	六六・二	五九・五	五三・〇	五一・五
五	六〇・〇	四九・〇	四六・〇	三三・〇	四八・〇	四六・〇	四三・三	五五・四	五〇・九	四六・〇	四七・八
六	三三・〇	二二・〇	五一・〇	三九・〇	四二・〇	三八・〇	五三・七	五三・二	三五・四	五〇・〇	四一・五
七	四四・〇	三六・〇	四一・〇	三九・〇	六〇・〇	四二・〇	五〇・四	五二・四	四四・二	五一・〇	四六・〇
八	四〇・〇	五四・〇	六四・〇	六九・〇	五三・〇	四四・〇	五三・一	五一・六	四七・〇	五九・〇	五三・六
九	四五・〇	二七・〇	四六・〇	四一・〇	四五・〇	四六・〇	四五・七	四一・六	四六・六	三七・〇	四二・一
十	六一・〇	四七・〇	六二・〇	四九・〇	三八・〇	五八・〇	五一・五	四九・三	四七・三	四一・〇	五〇・四
十一	四九・〇	五九・〇	五七・〇	四八・〇	五九・〇	五一・〇	六一・三	五七・四	四八・七	三八・〇	五二・八

至大正九年  
至昭和四年

（デヨントナル型）  
年間時數百分率

自至  
大昭  
正和  
九年四年  
平均日照時數



平 十	二
均 月	
四二・〇	四二・〇
四三・〇	四一・〇
五一・〇	四三・〇
四六・〇	四二・〇
五一・〇	四二・〇
四〇・〇	四二・〇
五一・一	四三・一
五一・七	四三・一
四八・三	四〇・〇
五八・〇	四四・〇
四九・九	四五・八

即ち二、三、四月及び十、十一月、春秋の候に於て日照時數多く五、六、七月及び九月に於て日照時數少し  
以上氣温、濕度、降水量、日照時と疫癘發生の關係を窺ふに、氣温の上昇と濕度の増加とは相俟つて疫癘發生と密接  
なる關係を有するものゝ如し。

#### 第六節 各年別氣温、濕度、降水量と疫癘發生の關係

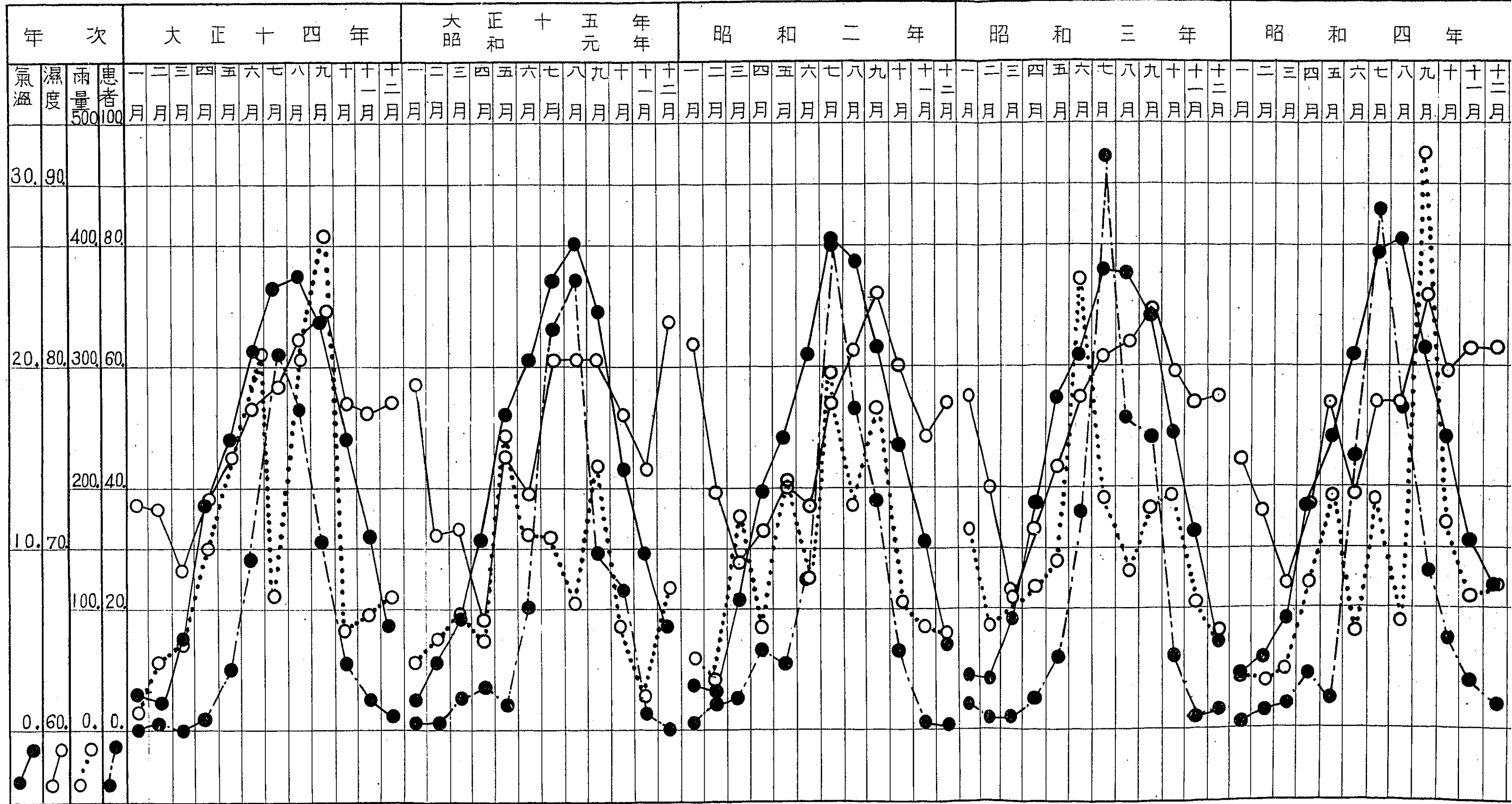
過去五箇年に就て氣象と疫癘發生との關係を綜合的に觀察するに、大正十四年に於て氣温は八、七、九、六月高く、  
濕度は九、八、七、六月に多く、雨量又九、八、六、五月に多く、患者發生の狀況は、七、八、九、六月に多くして、  
濕度高く濕度多き季節に於て患者の發生多し、

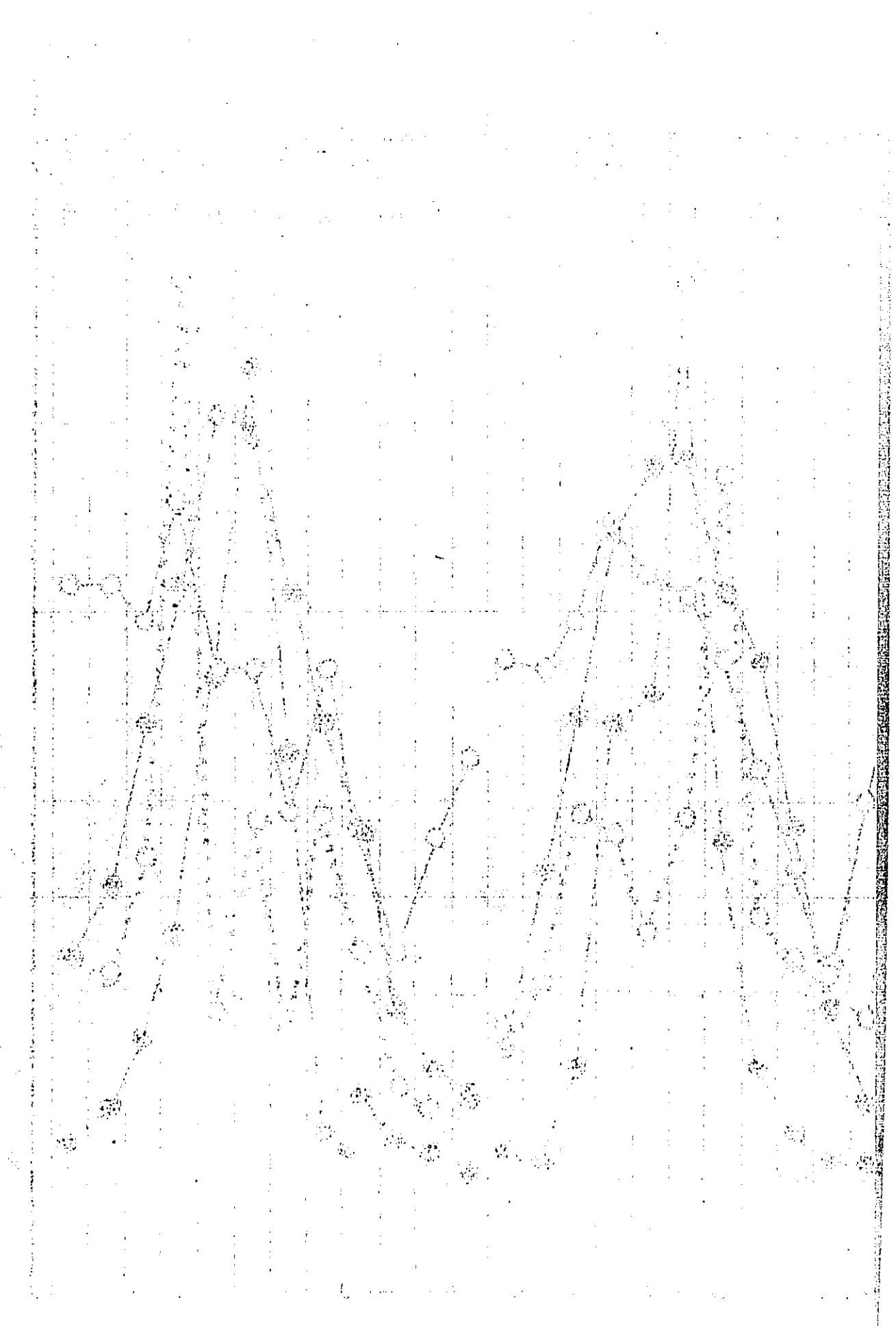
大正十五年に於ては氣温は八、七、九、六月の順に高く、濕度は七、八、九、十月に多く、雨量は五、九、六、七月  
に多きも、患者の發生は八、七、九、十月に多く、氣温、濕度、患者發生の狀況は殆んど併行狀態にあり。

昭和二年にては氣温は七、八、六、九月の順に高く、濕度は九、八、七、十月に多く、雨量は七、九、五、八月に多  
くして患者は七、八、九、六月に多し。

即ち各年度に就て見るも岐阜縣下に於ける氣温、濕度と患者發生の狀況は最も密接なる關係にあることを略々窺知す  
ることを得たるやの觀あり。

# 岐阜縣の氣温と疫痢發生との關係





## 策七節 全國氣象の概要

### 一、全國氣象

本邦は亞細亞大陸と太平洋の間に介在して、東北より長く西南に走り、従つて其の氣候は大陸大洋の影響を受くることの大なるものあるは今更言を俟たざる處なり、加ふるに本土中央には高山連峰高く聳えて縦斷し、以て表日本と裏日本とは氣候自ら甚だしく相違し、之れが吾人保健の上には最も密接なる關係を有するものあらんとは何人も首肯することにして、疫癘發生の上にも亦如何なる關係にありやを探知せんが爲め、氣溫、濕度、雨量と疫癘患者發生の關係を調査考察せんと企てたり。

#### イ、全國氣溫

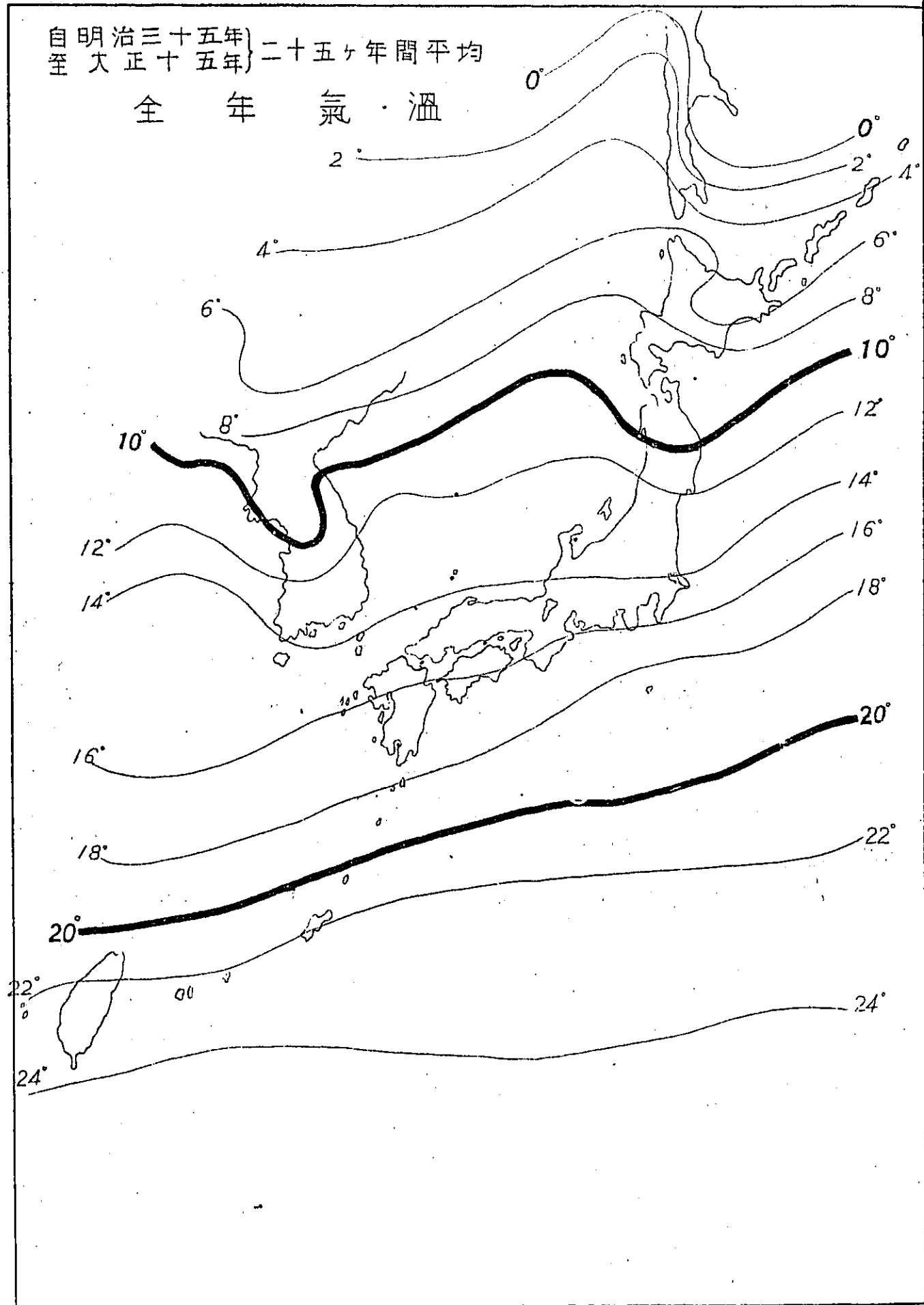
二十五箇年間に於ける本邦平均氣溫に依りて内地全土に亘り等溫線を作製するときには北海道地方を除きては、一〇度線より二〇度線の間に介在す。

更に各月に就て平均等溫度線の移動状態を見るに、一、二月は沖繩縣を除きては本土に於て一〇度以上に氣溫の上昇することなきも、三月に入りては漸く九州四國の南部及南紀地方一帯に一〇度線を見るに至り、四月に入りて一〇度線は北進して東北地方にまで進み、五月には更に北進して北海道中央に走ると共に、二〇度線は九州南端に接近し來り、全土漸く氣溫の上昇を見るに至り、更に六月に至れば二〇度線は北進して關東地方より信越地方を縦斷して山陰地方に九州四國南端には二三度等溫線を見るに至る、即ち疫癘發生區域は二〇度乃至二二度等溫線内に入るに至る、七月には二〇度線は關東地方より北進して青森縣地方に走り、九州南部は二六度線を示し、疫癘流行地域は二四度乃至二六度線内に見るに至る、八月には二〇度線は北海道中部に走り、九月に至れば此處に氣溫の下降を見るに至りて略々六月氣溫

自明治三十五年  
至大正十五年

二十五ヶ年間平均

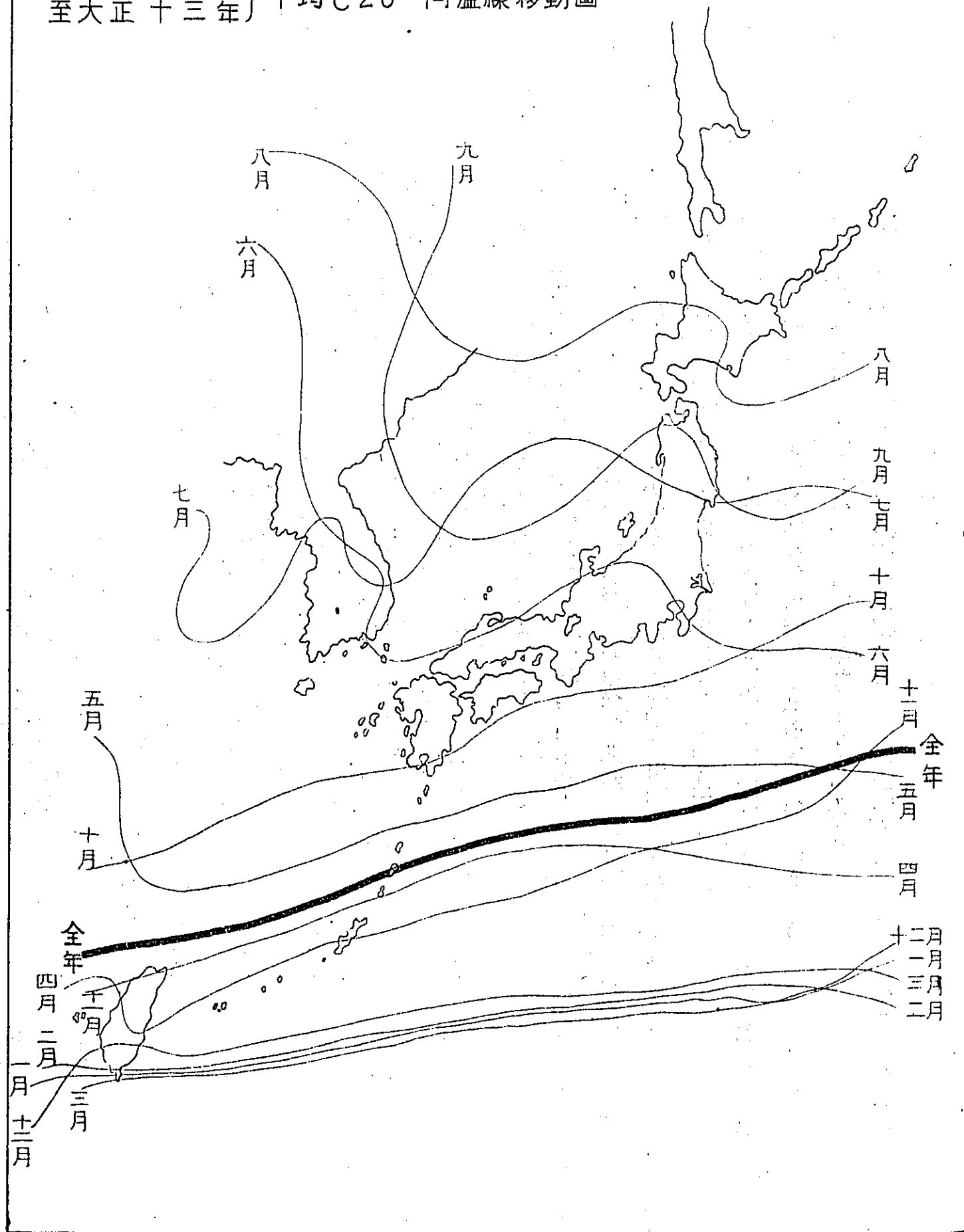
全年氣・温



と同温となり等温線は南下し、十月に至りては二〇度等温線は更に南下して九州四國南端に再歸し、十一月にては氣温俄に下降して一〇度等温線を本土中央に見るに至り略々四月氣温と一致し、十二月氣温は三月氣温と同位にして一〇度線は九州四國南端より南紀地方に再歸するを見るものなり、即ち之れを要するに六月、七月、八月、九月の内地に於ける疫癘の發生季節に於ける氣温は二二度乃至二八度の間を往來し居るものにして其の移動状態は左表の如し



自明治三十五年 } 平均 C 20° 同温線移動圖  
至大正十三年

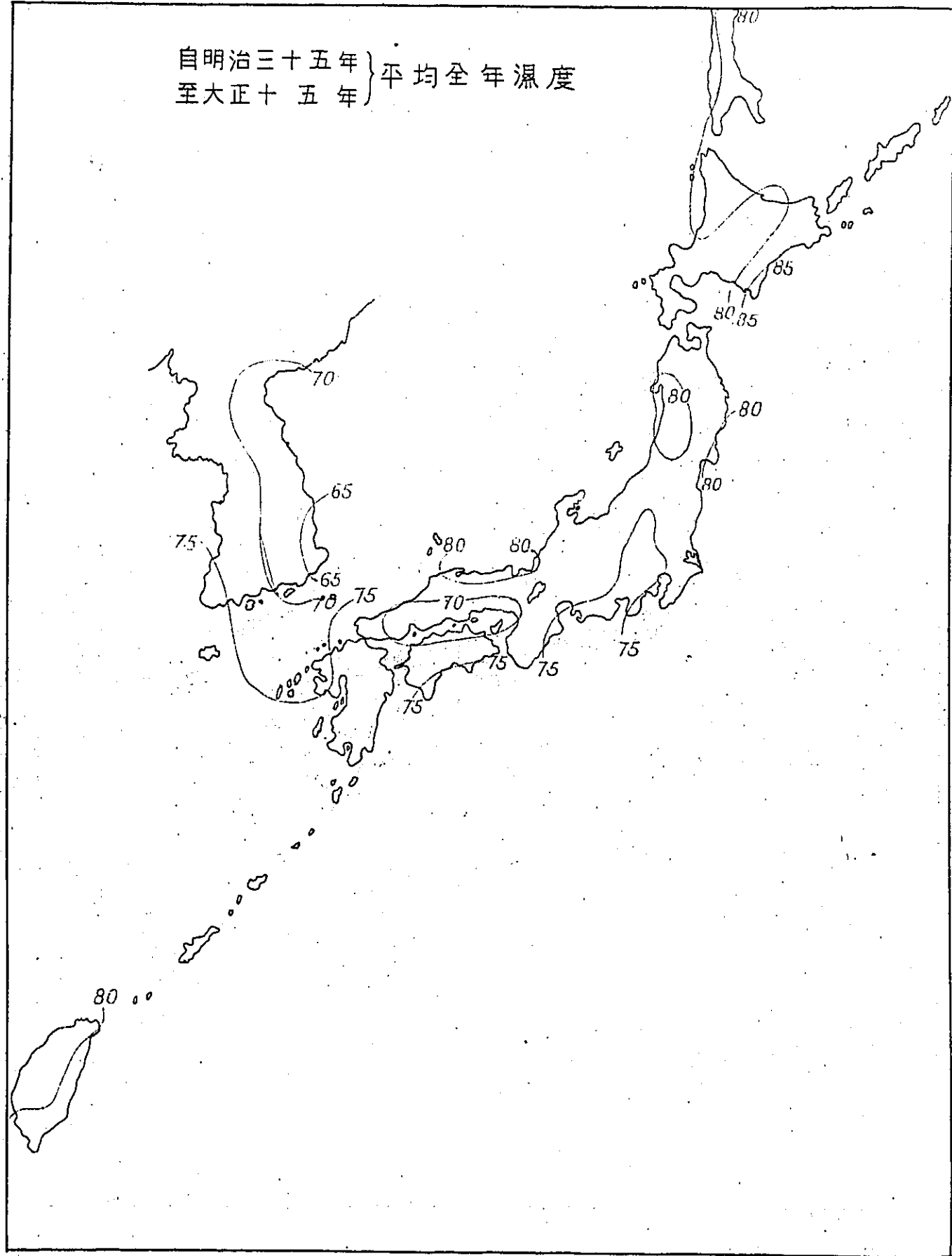


ロ、全國濕度

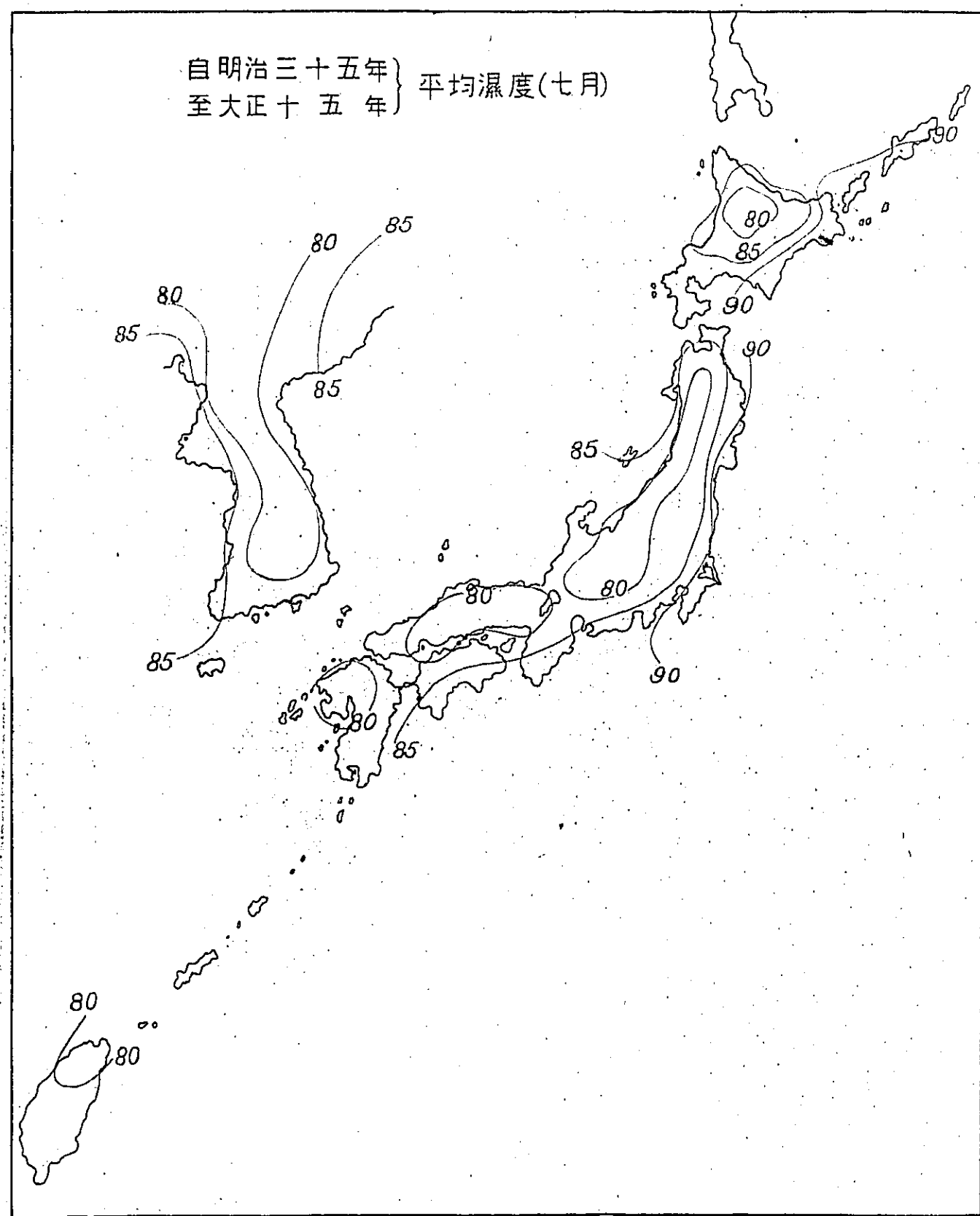
二十五箇年間の全年濕度に據れば、中國、四國地方最も濕度低くして七〇・〇%を示し其の他の地方に於ては七五・〇%内外にて只東北、山陰、北陸地方に在りては八〇・〇%の濕度を示すものなり。

各月に亘りて見るに一、二月酷寒期にありては北陸、山陰、東北地方に於て濕度多くして八〇・〇%乃至八五・〇%を示すも、三月に入りては其配置整定して全土を通じて六五・〇乃至七五・〇%にして、五月にては九州、四國の一端にては八〇・〇%を示し、六月にては中國、東海、東山道地方にては七〇・〇乃至七五・〇%を示すも、七、八月に於ては本土は八〇・〇%の濕度を有するに至る、而して十月に入りては再び北陸、山陰、東北地方に濕度高く八〇・〇乃至八五・〇%を示すものにして、即ち一、二、十一、十二月の冬季に於ては山陰、北陸、東北地方に濕度増加し、關東、中國殊に山陽道、四國、九州地方に濕度少きも、五、六、七、八月夏季の候に内地全土一般に濕度高く七五・〇%乃至八五・〇%を示し、疫癘發生季節は最も濕度高き季節なることを知るを得べし。

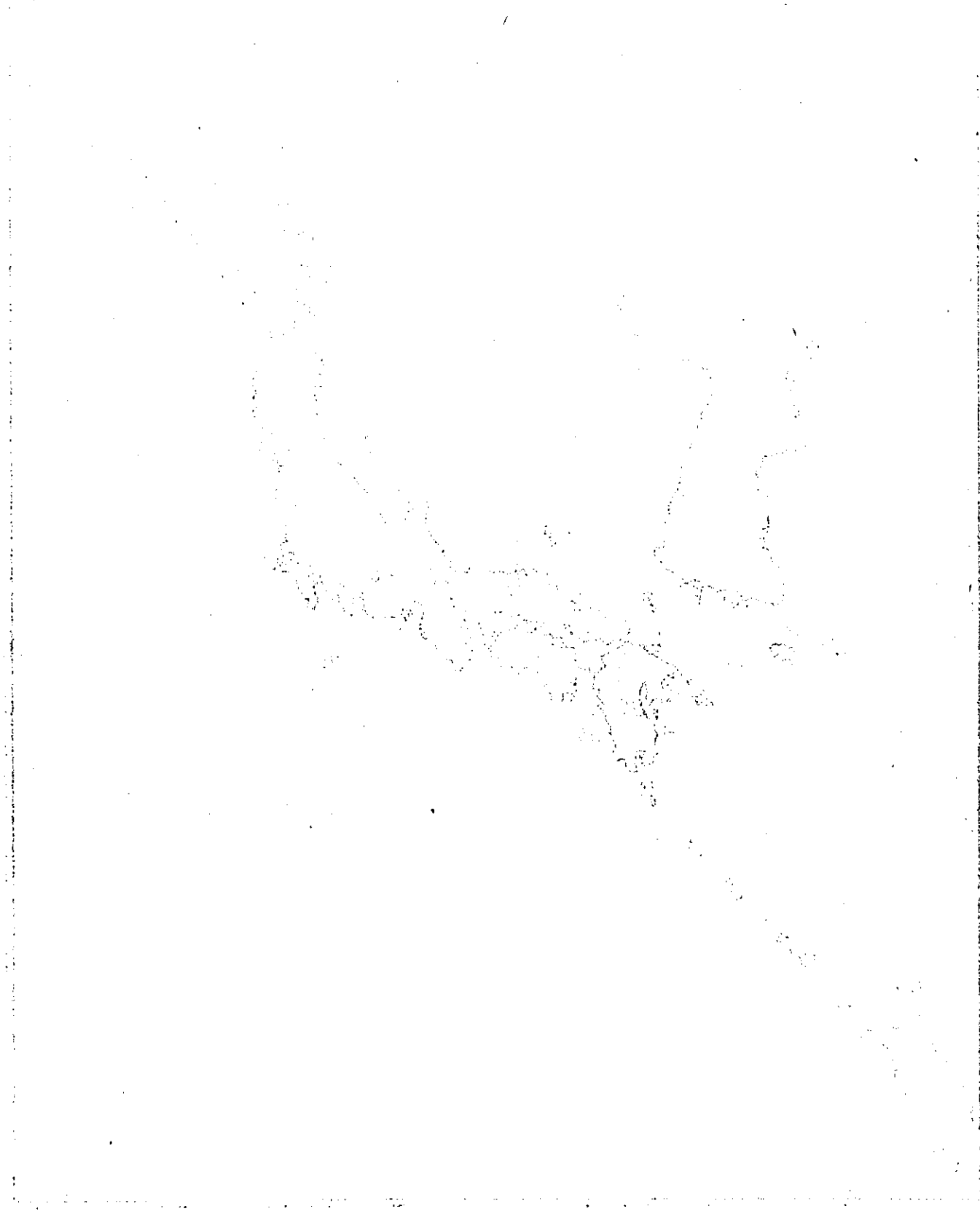
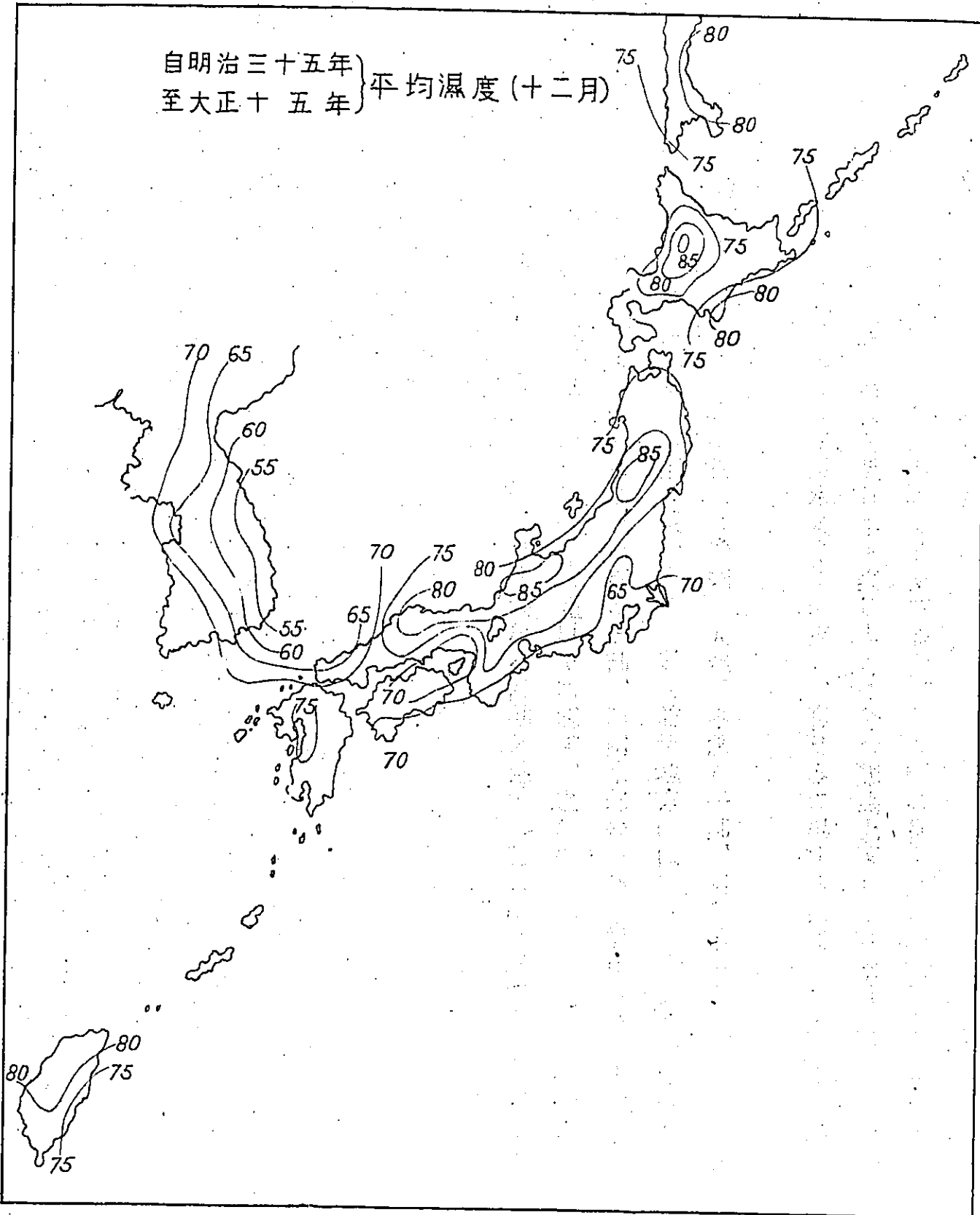
自明治三十五年 } 平均全年濕度  
至大正十五年 }

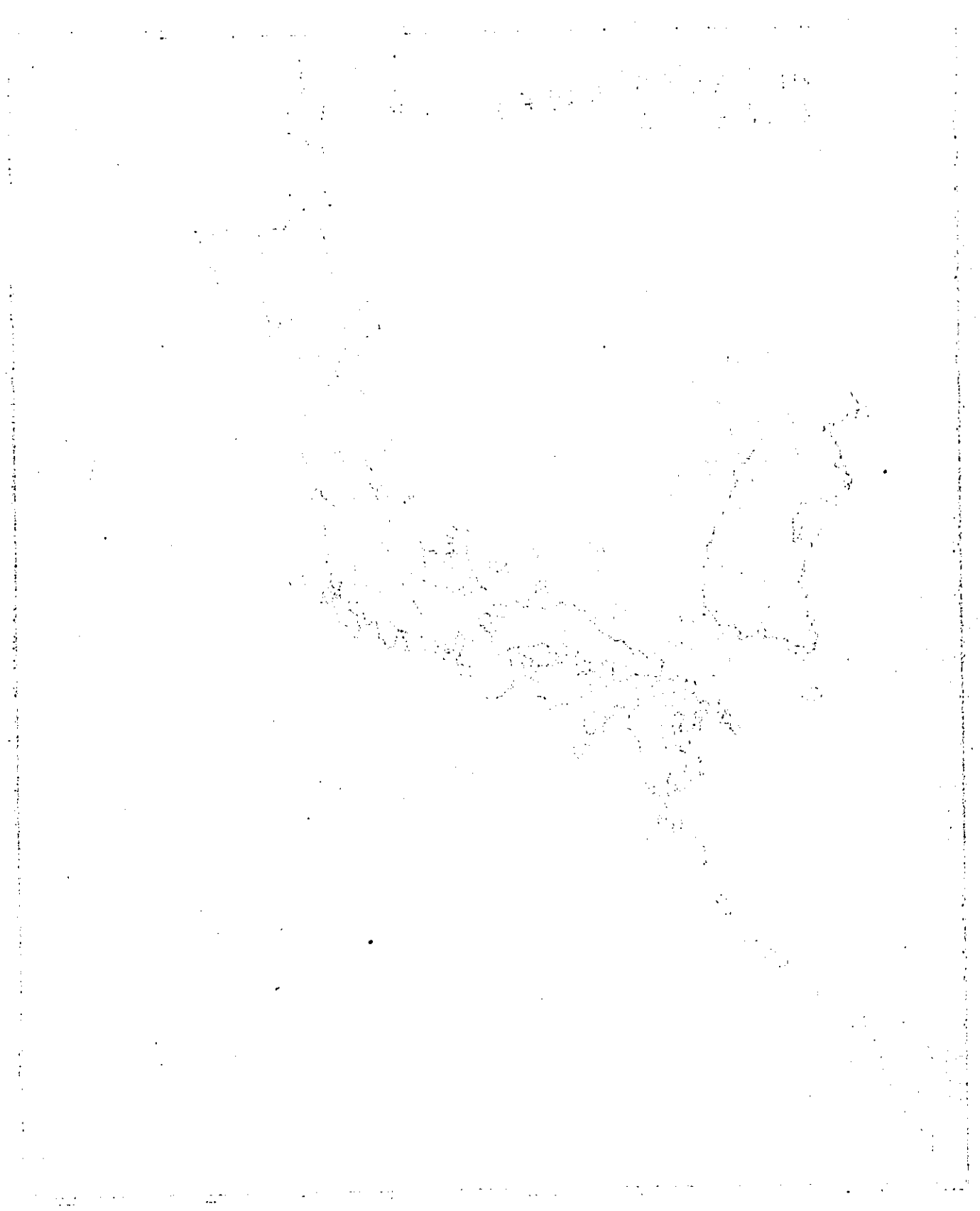


自明治三十五年  
至大正十五年 平均湿度(七月)



自明治三十五年  
至大正十五年 } 平均湿度(十二月)



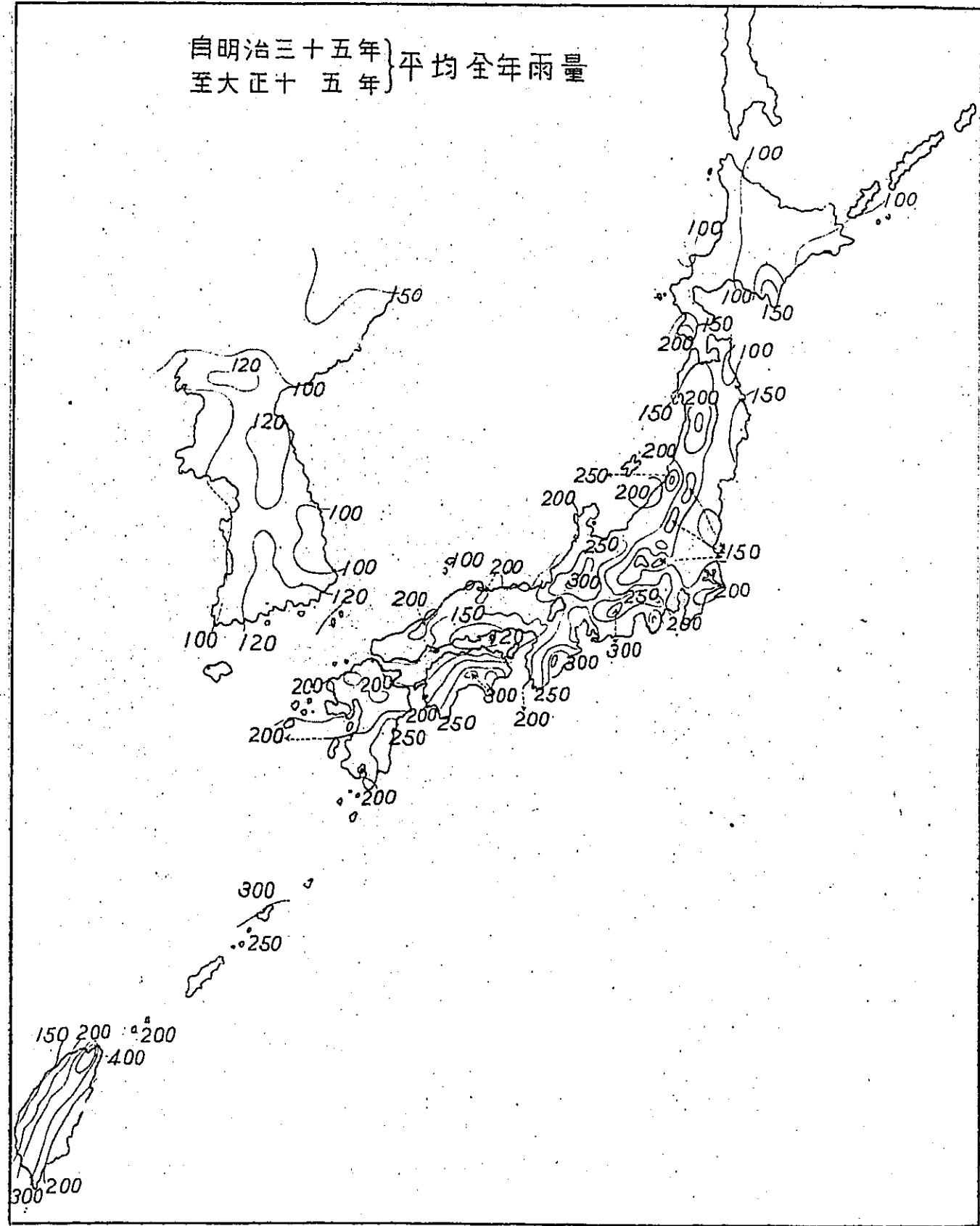


#### ハ、全國降水量

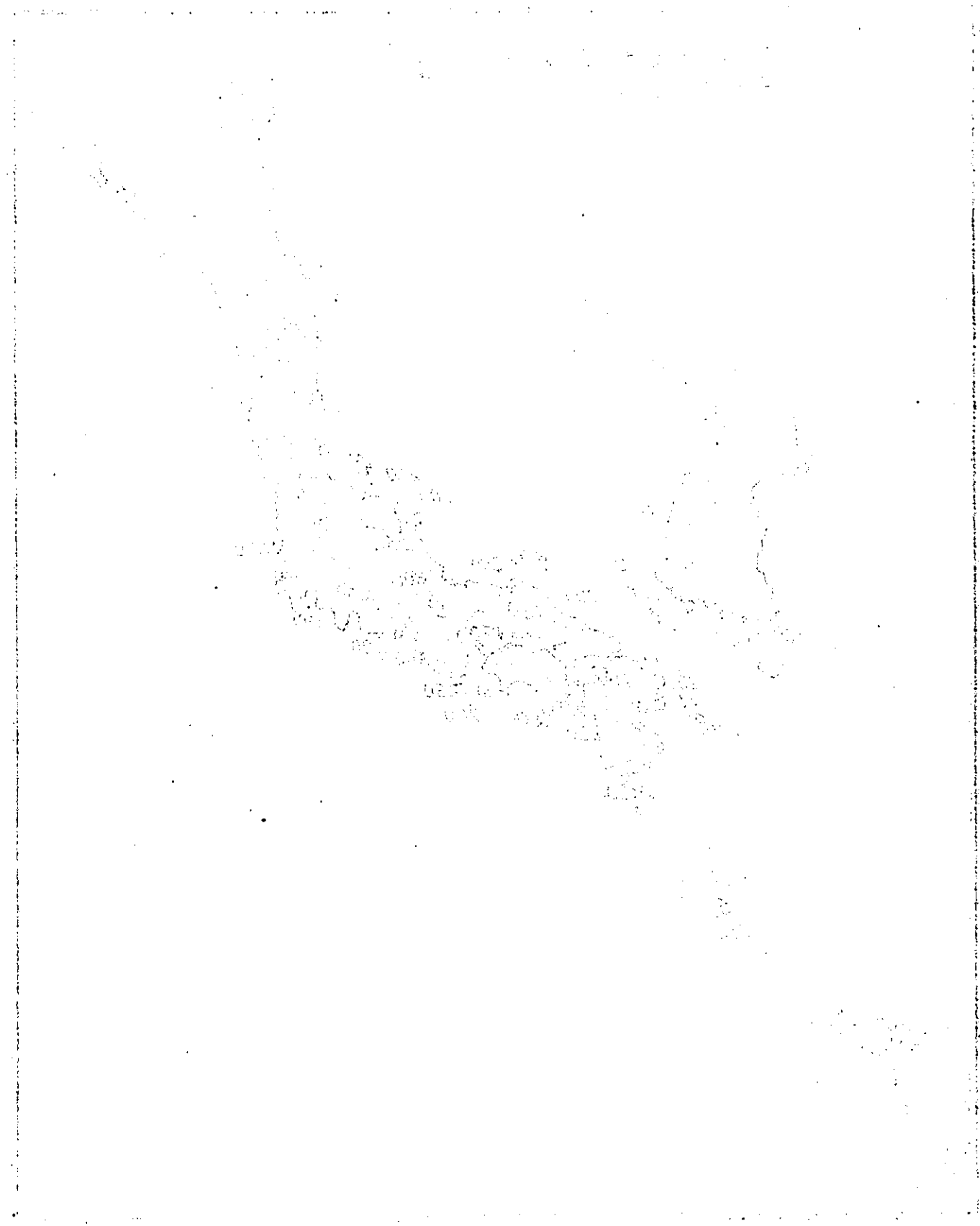
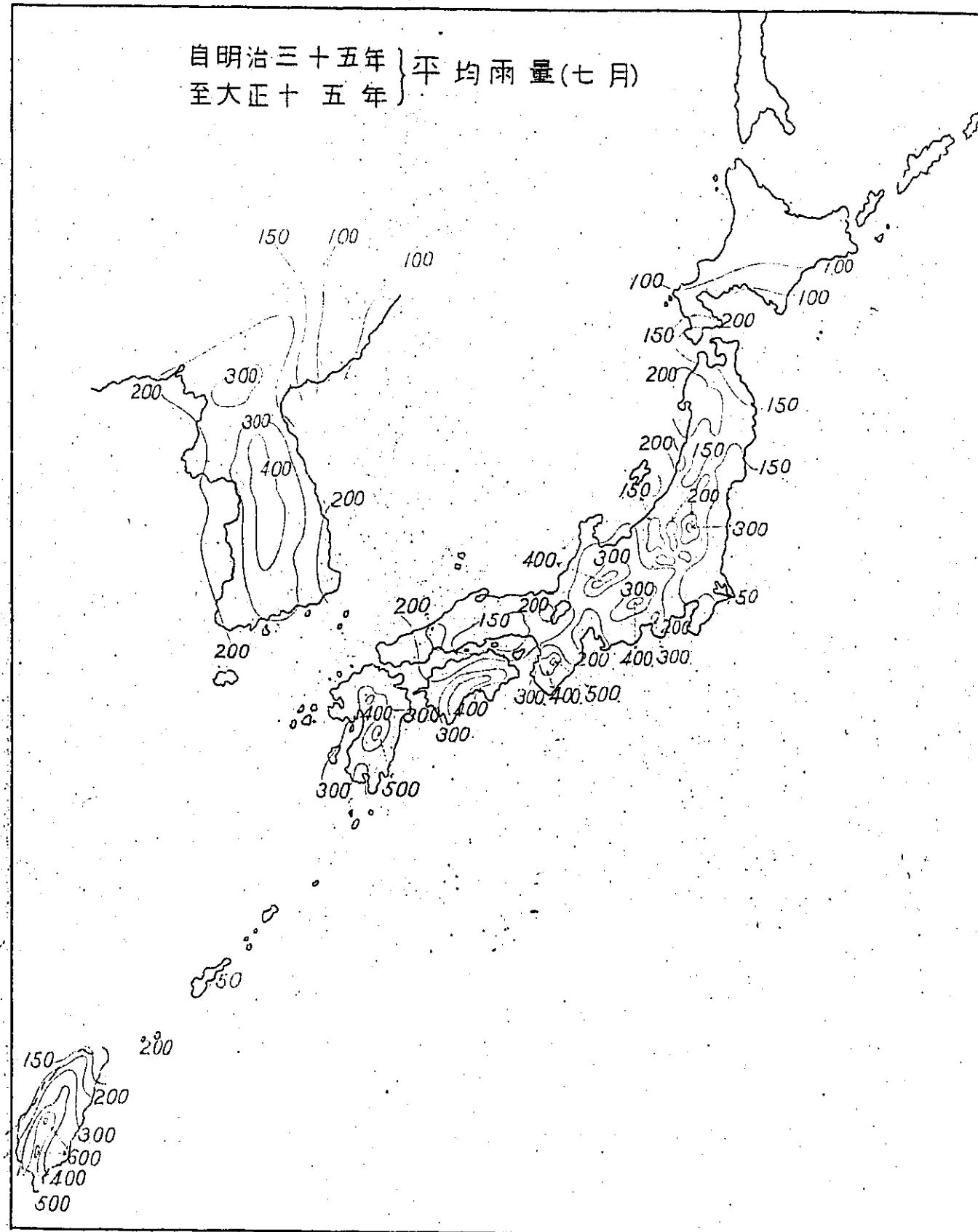
本邦雨量は其の地勢的關係上夏季は一般に濕潤せる南風多く、冬季には日本海を經過し來る濕潤せる北風の多くして本土の中央を縦走せる山脈によりて、之れを裏日本と表日本とに分つ關係上著しく降水量に差異を生じ、従つて表日本に屬する一帯より九州、四國に亘りては夏季降水量多きに反し、裏日本に屬する山陰、北陸、東北地方一帯に亘りては冬季降水量最も多し

季節別に降水量の關係を見るに六、七月に於ては四國、九州、中國の一部、南紀地方より東海道に亘りては三〇〇耗以上五〇〇耗の降水量あり、七月に至りては稍々減少すると雖も前記地方は依然として二五〇耗以上四〇〇耗の降水量を見、八月に入りては漸次降水區域を減縮して九州南部の一部、四國南部の一部、紀伊南部、東海道南部に雨量多きも十月に入るに及んで該地方は俄に降水量を減じて一〇〇耗以下に達す、之れに反して山陰、北陸、東山地方に二五〇耗以上三〇〇耗の降水量を見るに至り、十二、一、二月は大なる移動を見ず、三月に至りて降水量の減少するを見るものなり。

自明治三十五年  
至大正十五年 } 平均全年雨量

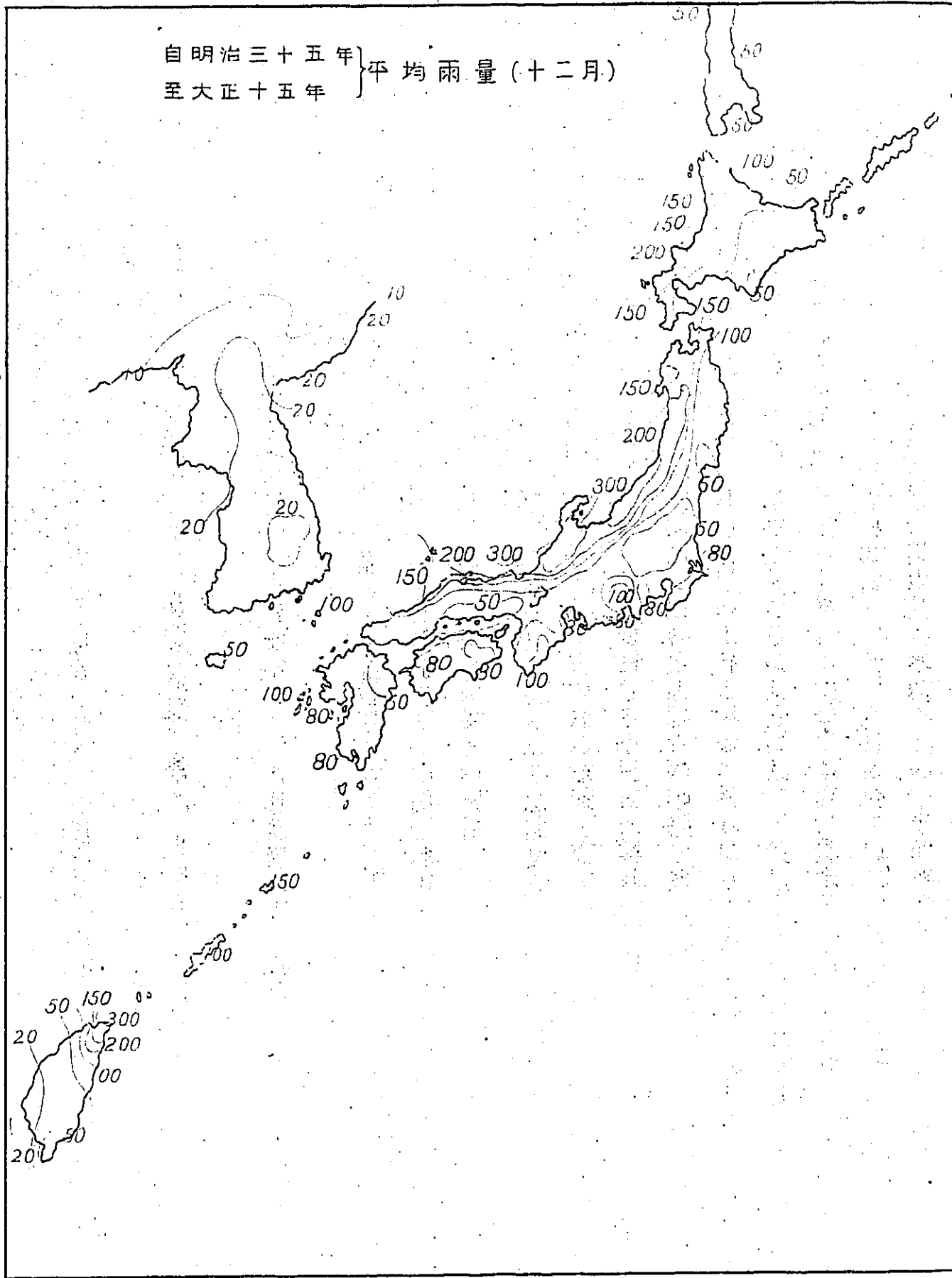


自明治三十五年 } 平均雨量(七月)  
至大正十五年





自明治三十五年 } 平均雨量(十二月)  
至大正十五年



以上全國に於ける温度の昇降、湿度の増減と降水量の増減と其の季節的移動状態を疫痢の發生數に比較考察すれば、六月疫痢發生地域は二〇度乃至二四度等温線内に當り、七、八月に於ては二四度乃至二六度等温線内に在りて、湿度、降水量又疫痢發生地方に最も多き事實は、気温の上昇と相俟つて湿度、降水量の増加が小兒の體質に影響し延ひては疫痢の發生と最も密接なる關係にあることを想像せしむるに充分にして、岐阜縣下に於ける關係と全く其の軌を一にする事實を發見するものなり、即ち六、七、八月の気温の上昇と湿度の増加は益々暑熱を加え生活體に影響しては體温の放散を緩慢ならしむることは云ふまでもなく、延ひては各生活器官の弛緩を來し、其の抵抗力の減弱を來さしむると共に化學的、生物學的に變調を來し易きは隙にして、殊に幼弱なる小兒或は特種の體質を有するものに於ては抵抗力を減弱ならしむること甚だしく、疫痢發生誘因の一因子として重要な意義を有するものならん、是等の關係と相俟つて外界飲食物の腐敗現象は疫痢の發生傳播の機を醸すに至るものならんと思惟せらるゝものなり。

## 二、地方別気温、湿度と疫痢發生との關係

昭和三年、四年の気温、湿度と同年に於ける疫痢患者發生との關係を地方別に觀察するに、東京府に於ては八月の気温二五・四度にして湿度又多く患者發生最も高率を示し、九月、十月と気温の下降と共に患者減少す。

静岡縣に於ては六月気温、湿度の増加に従つて患者亦増加し、八月気温二五・八度の最高、七月湿度高く患者の發生最高率なり。

愛知縣に於ては八月二六・六度気温最高にして患者の發生最も多く、九月湿度最多にして気温尙二四・〇度内外にして患者依然として發生率高し。

京都府に於ては七月、八月最高気温にして湿度多く患者亦多く、十月気温の低下につれて患者減少す。

大阪府八月最高にして氣温二七・三度、湿度は七月最も多く七七・三%にして患者は七、八月に發生率高し、九月氣温、湿度の低下と共に患者減少す。

廣島縣に於ては七月氣温高く二六・八度、湿度七七・八%の最高にて患者も亦多くして十月氣温、湿度の降ると共に患者減少す。

福岡縣にては八月二六・八度の氣温最高にして湿度亦多く患者最高率なり。

熊本縣に於ては七月二六・〇度最高にして湿度又最も多く患者七月に於て最多なり。

岩手縣の最高氣温は八月にして二三・一度次で七月の二二・六度なり、湿度は八月最も多く八一・〇%なるも六、七、八、九、十月の各月の間に大なる差異を見ず、疫癘患者の發生は其の數尠きも八月、九月に於て最高位なり。

長野縣の氣温は八月二三・五度、七月二三・四度にして湿度は氣温の下降後九、十、十一、十二月に於て増加す、疫癘の發生數尠きも、八月に於て最多なり。

富山縣にては八月最高氣温にて二六・一度、七月二五・五度にして、湿度は一、二、十一、十二月に最も多く八一・〇%内外なるも、夏季は湿度反つて尠く七九・〇%内外にして疫癘發生極めて少數なり。

滋賀縣に於ては七月最高氣温にして二五・七度を示すも、湿度は十二月最高にして、十一、十、九、一、二月に多く七、八、六月に於ては湿度尠し、疫癘患者の發生は總數に於て尠きも九、八月に於て多し。

鹿兒島縣に於ては八、九月氣温最高にして二七・二度を示すも、湿度は六月最も多く次で十二、十一月多くして七、八九月の氣温上昇の期に於て湿度減少す、疫癘患者の發生は總數尠きも六、七、八月に發生多し。

以上各地方に於ける發生状況より考察するも、其の發病の誘因としては勿論年齢的差異、個性の體質及飲食物による胃腸障害を考慮せしめらるゝも其の發生區域は山陰、北陸、東北、北海、琉球地方に尠くして、四國、九州、近畿、東

海、關東地方に多く、内地に於ても比較的四季を通じて、高温地なる和歌山縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖縄縣地方に患者發生率の尠き關係より窺ふも氣温の上昇のみを以て之れを説明することは容易ならず、疫癘流行地方の氣温と湿度及夫れに因る體質の變調を觀察することは重要なることにして又各種統計の示す所を見るも最も密接なる關係にあることを留意すべきものなり。

自明治三十五年 至大正十五年 二十五箇年間 全國平均氣温

府縣名	月次											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月全年
北海道	六〇・六	六〇・六	六〇・八	六〇・三	六六・五	五九・九	五七・一	五七・八	六〇・三	六二・九	六二・五	五九・六
青森	六二・一	六二・六	六三・〇	六二・二	五六・六	五六・九	五七・一	五七・六	六〇・二	六二・七	六三・一	六〇・四
秋田	六二・八	六三・三	六三・六	六二・七	五六・九	五六・七	五七・九	五七・二	六〇・〇	六二・八	六三・七	六〇・七
山形	六三・二	六三・六	六三・〇	六二・九	五六・九	五六・七	五七・〇	五七・四	六〇・二	六三・一	六四・一	六二・八
岩手	六二・七	六二・四	六二・九	六二・三	五六・八	五六・三	五七・四	五七・九	六〇・四	六二・七	六三・〇	六〇・九
宮城	六二・四	六三・〇	六三・五	六二・八	五六・三	五六・二	五七・五	五七・八	六〇・三	六二・八	六三・六	六二・一
福島	六二・六	六二・一	六三・四	六二・五	五六・七	五六・六	五七・三	五七・三	六〇・〇	六二・七	六三・六	六二・二
茨城	六二・五	六二・九	六三・三	六二・七	五六・一	五六・〇	五七・四	五七・七	六〇・一	六二・六	六三・三	六〇・七
栃木	六二・九	六二・二	六三・五	六二・七	五六・二	五六・〇	五七・五	五七・七	六〇・二	六二・九	六三・九	六〇・九
千葉	六二・二	六二・五	六三・〇	六二・五	五六・九	五六・〇	五七・五	五七・七	六〇・八	六二・一	六三・二	六〇・五

和歌山	兵庫	鳥取	島根	岡山	廣島	山口	香川	徳島	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿兒島
六五、四	六五、三	六五、六	六六、〇	六五、九	六六、四	六六、三	六五、九	六五、五	六六、二	六六、二	六六、八	六六、八	六六、九	六六、九	六六、四	六六、〇	六六、三
六四、三	六四、三	六四、七	六五、〇	六四、八	六五、三	六五、二	六四、九	六四、五	六五、〇	六三、九	六五、六	六五、五	六五、五	六五、二	六四、六	六四、九	六四、九
六三、八	六三、九	六四、二	六四、三	六四、二	六四、五	六四、三	六四、二	六四、〇	六四、二	六三、四	六四、五	六四、三	六四、二	六四、二	六四、三	六三、七	六三、八
六一、九	六一、〇	六一、〇	六一、九	六一、一	六一、二	六一、九	六一、〇	六一、〇	六一、〇	六一、七	六一、八	六一、八	六一、八	六一、〇	六一、七	六一、七	六一、七
五九、〇	五九、一	五八、九	五八、九	五八、九	五九、一	五九、一	五九、〇	五九、一	五九、一	五九、〇	五八、九	五八、八	五八、九	五九、〇	五八、九	五八、九	五八、九
五六、五	五六、六	五六、二	五六、一	五六、四	五六、一	五六、一	五六、三	五六、五	五六、四	五六、六	五六、〇	五六、一	五六、一	五六、二	五六、四	五六、四	五六、四
五七、三	五七、〇	五七、四	五七、四	五七、八	五七、四	五七、四	五七、七	五七、九	五七、八	五七、一	五七、三	五七、四	五七、四	五七、五	五七、六	五七、八	五七、八
五六、七	五六、八	五六、五	五六、三	五六、六	五六、二	五六、三	五六、五	五六、八	五六、五	五六、八	五六、〇	五六、一	五六、〇	五六、三	五六、三	五六、三	五六、三
五九、二	五九、三	五九、六	五九、四	五九、四	五九、一	五九、四	五九、二	五九、三	五九、一	五九、〇	五八、八	五八、七	五八、八	五八、八	五九、〇	五八、八	五八、六
六二、六	六二、七	六三、二	六三、二	六三、二	六三、一	六三、二	六三、〇	六三、九	六三、九	六三、三	六三、九	六三、九	六三、八	六三、九	六三、九	六三、四	六三、三
六四、九	六五、〇	六五、二	六五、四	六五、四	六五、七	六五、二	六五、三	六五、二	六五、四	六五、四	六五、八	六五、七	六五、六	六五、五	六五、五	六五、一	六五、一
六五、一	六五、一	六五、三	六五、八	六五、八	六六、一	六六、三	六六、〇	六六、四	六六、四	六六、〇	六六、七	六六、七	六六、七	六六、七	六六、八	六六、八	六六、三
六一、四	六一、四	六一、五	六一、六	六一、六	六一、八	六一、八	六一、六	六一、五	六一、六	六一、二	六一、六	六一、六	六一、六	六一、六	六一、七	六一、六	六一、四

群馬	埼玉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	靜岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	奈良
六三、一	六三、〇	六三、八	六三、六	六三、八	六四、八	六四、七	六五、〇	六三、四	六四、七	六四、六	六三、〇	六四、五	六四、七	六五、一	六五、三	六五、三	六五、五
六二、四	六二、三	六二、八	六二、〇	六三、二	六四、一	六四、〇	六四、二	六三、三	六三、八	六三、六	六二、二	六三、五	六三、七	六四、二	六四、三	六四、三	六四、四
六二、六	六二、五	六二、四	六二、二	六三、五	六四、〇	六三、九	六四、一	六三、三	六三、六	六三、五	六二、二	六三、四	六三、六	六四、一	六四、一	六四、〇	六四、〇
六一、七	六一、七	六一、八	六一、五	六二、二	六二、三	六二、〇	六二、五	六一、五	六一、〇	六一、〇	六一、〇	六一、〇	六一、〇	六一、三	六一、三	六一、三	六一、三
五九、〇	五九、一	五九、一	五九、二	五九、二	五九、二	五九、〇	五九、五	五九、二	五九、二	五九、二	五九、二	五九、二	五九、二	五九、三	五九、三	五九、三	五九、三
五六、八	五六、九	五六、九	五六、九	五六、七	五六、五	五六、五	五六、五	五六、四	五六、四	五六、四	五六、八	五六、八	五六、八	五六、七	五六、七	五六、七	五六、六
五七、二	五七、三	五七、三	五七、五	五七、〇	五七、九	五七、八	五七、八	五七、七	五七、七	五七、七	五七、二	五七、二	五七、二	五七、二	五七、二	五七、二	五七、二
五七、五	五七、六	五七、六	五七、四	五七、四	五七、〇	五七、八	五七、八	五七、七	五七、七	五七、七	五七、一	五七、一	五七、一	五七、一	五七、一	五七、一	五七、一
六〇、一	六〇、一	六〇、〇	六〇、〇	六〇、〇	六〇、八	六〇、六	六〇、六	六〇、九	六〇、九	六〇、九	五九、五	五九、五	五九、五	五九、六	五九、六	五九、四	五九、五
六三、九	六三、八	六三、六	六三、五	六三、〇	六三、一	六三、九	六三、九	六三、七	六三、七	六三、七	六三、〇	六三、〇	六三、〇	六三、〇	六三、〇	六三、〇	六三、〇
六四、〇	六三、九	六三、七	六三、八	六四、四	六四、九	六四、七	六四、七	六四、四	六四、九	六四、九	六四、七	六四、六	六四、七	六四、七	六四、二	六四、二	六四、二
六二、八	六二、七	六二、五	六二、四	六三、四	六三、四	六三、三	六三、三	六三、二	六三、二	六三、二	六二、九	六二、九	六二、九	六二、九	六二、九	六二、九	六二、九
六一、八	六一、八	六一、七	六一、七	六一、一	六一、四	六一、三	六一、三	六一、二	六一、二	六一、二	六一、六	六一、六	六一、六	六一、六	六一、六	六一、六	六一、六